

学習状況診断票(社会) 中学校 第2学年
2年 組 番 氏名

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点		
	大問	小問	通番		思考・判断	観察・資料活用・表現	知識・理解
地理的分野	1	1	1	フランスの地形図を様々な条件のもとに、正しく読み取ることができる。			
		2	2	世界におけるアメリカの小麦と牛肉の生産量と輸出量の割合を示す円グラフを正しく読み取ることができる。			
		3	3	グラフや文章から、マレーシアの人々の様子について読み取り、適切な学習課題を設定することができる。			
		4(1)	4	中国の貿易の特色について、複数のグラフを関連付けて考え、判断することができる。			
		4(2)	5	グラフから中国の人口が年々増加していることを読み取り、国の政策として人口を抑えている理由を食糧問題の視点から考え、説明することができる。			
	2	1(1)	6	気温や降水量の年間の変化の違いから、日本の気候の地域差を考えることができる。			
		1(2)	7	南北に伸びる日本の北側と南側の気候の特色から、それぞれが属する気候帯を正しく理解している。			
		2	8	面積の数値をもとに、日本の国土のうち「山地」と「低地」が占める割合を計算し、帯グラフに正しく表すことができる。			
		3(1)	9	震源地の位置と世界の造山帯の資料とを関連付けて、日本で地震が多い理由を考え、説明することができる。			
		3(2)	10	台風や梅雨、秋雨などの気候によって引き起こされる災害について理解している。			
歴史的分野	3	1	11	江戸時代の外国とのかかわりについて、時代の大きな流れのなかで考えることができる。			
		2	12	ペリーの航路の資料を正しく読み取ることができる。			
		3	13	横浜港がある都道府県の位置を、地図上に正しく示すことができる。			
		4	14	「開国後の日本の主要輸出入品の割合」の資料から、開国後の日本の貿易の様子を読み取ることができる。			
		5	15	江戸時代の文化について、その特徴と主な作品について正しく理解している。			
	4	1	16	府知事や県令を派遣して地方を治めるために、明治政府が廃藩置県を行ったことを理解している。			
		2	17	幕末に結んだ不平等条約の内容が、外国に領事裁判権を認め、日本に關稅自主権がないことであることを理解している。			
		3	18	大日本帝国憲法が、国会開設の前に発布され、アジアで初の立憲制国家となり、天皇が国の元首として大きな権限をもつものであることを理解している。			
		4	19	「総人口に占める選挙権を与えられた人の割合の変化」と「選挙権を与えられた条件と当時のおおよその日本の全人口」の資料を関連付けて正確に読み取ることができる。			
		5	20	日比谷焼討事件など暴動がおきた理由を、多くの死者、増税などの国民の犠牲の大きさと、ポーツマス条約で得た日本の権益の少なさの対比から考え、説明することができる。			
					/6	/8	/6

今後の学習に向けて 自分が頑張りたいところに を付けたり、下線を引いたりしましょう。

「思考・判断」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや統計資料から分かることを明確にして、課題を解決するためにそれらをつないで考えるようにしましょう。 ・「できごとがおきた要因」や「その影響、社会の様子や変化」などを、複数の視点から考えることを大切にしましょう。 ・家庭においては、学校で学習した内容をもとに、歴史の移り変わりから今の生活を見つめたり、さまざまな地域と身近な地域を比較したりして、自分が考えたことをまとめてみましょう。
「観察・資料活用・表現」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や資料などを活用するときには、課題を明確にもち、「タイトル」「単位や項目」「数値の変化」「大事な言葉」「人々の動き」などの視点から、読み取るようにしましょう。 ・時代の特色を示す年表をついたり、統計図表をもとにグラフを作成したりするなど、地図化、資料化することに取り組んでみましょう。歴史上のできごとの場所を地図で調べるなど、歴史と地理で身に付けたことを生かすことも大切です。 ・家庭においては、ニュースや新聞等で見たり聞いたりした地名や歴史的なできごとを地図や地球儀、年表等で調べて、その位置や意味を確認しましょう。また、外出する際、地図を活用して、目的地までのルートや距離を確認することに挑戦してみましょう。
「知識・理解」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> ・地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付け、分かったことをはっきりさせていく学習を大切にしましょう。 ・年表や時代の特色を示すカードをつくるなど、その時代の様子やその時代を生きた人の姿を明らかにして、歴史の大きな流れと各時代の特色を理解することができるようにしましょう。 ・家庭においては、休日などに博物館や調べてみたい場所に行き、実物、具体物など多様な資料に親しんだり、その仕事にたずさわっている人とふれあったりしてみましょう。また、新聞記事やテレビの映像、インターネットなども活用し、興味・関心をもったテーマについて進んで調べてみましょう。